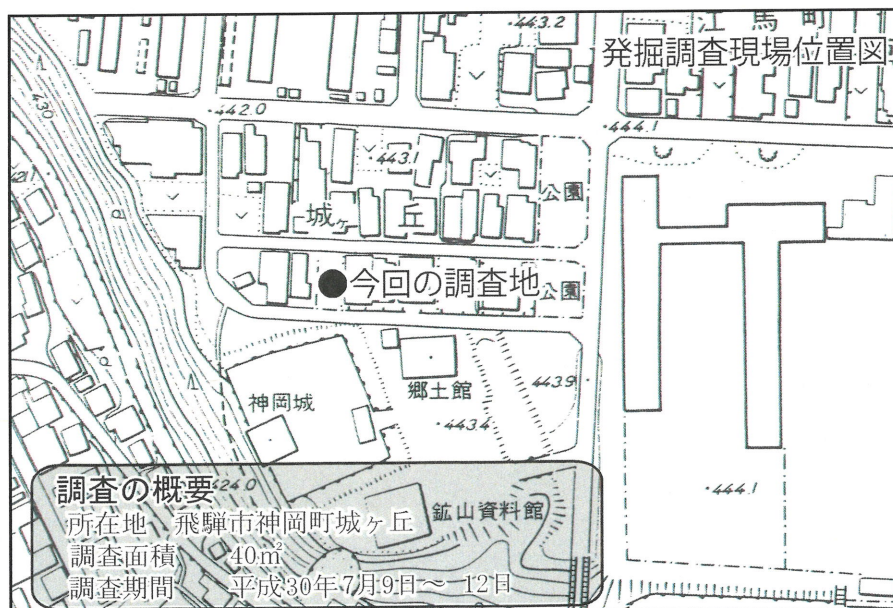
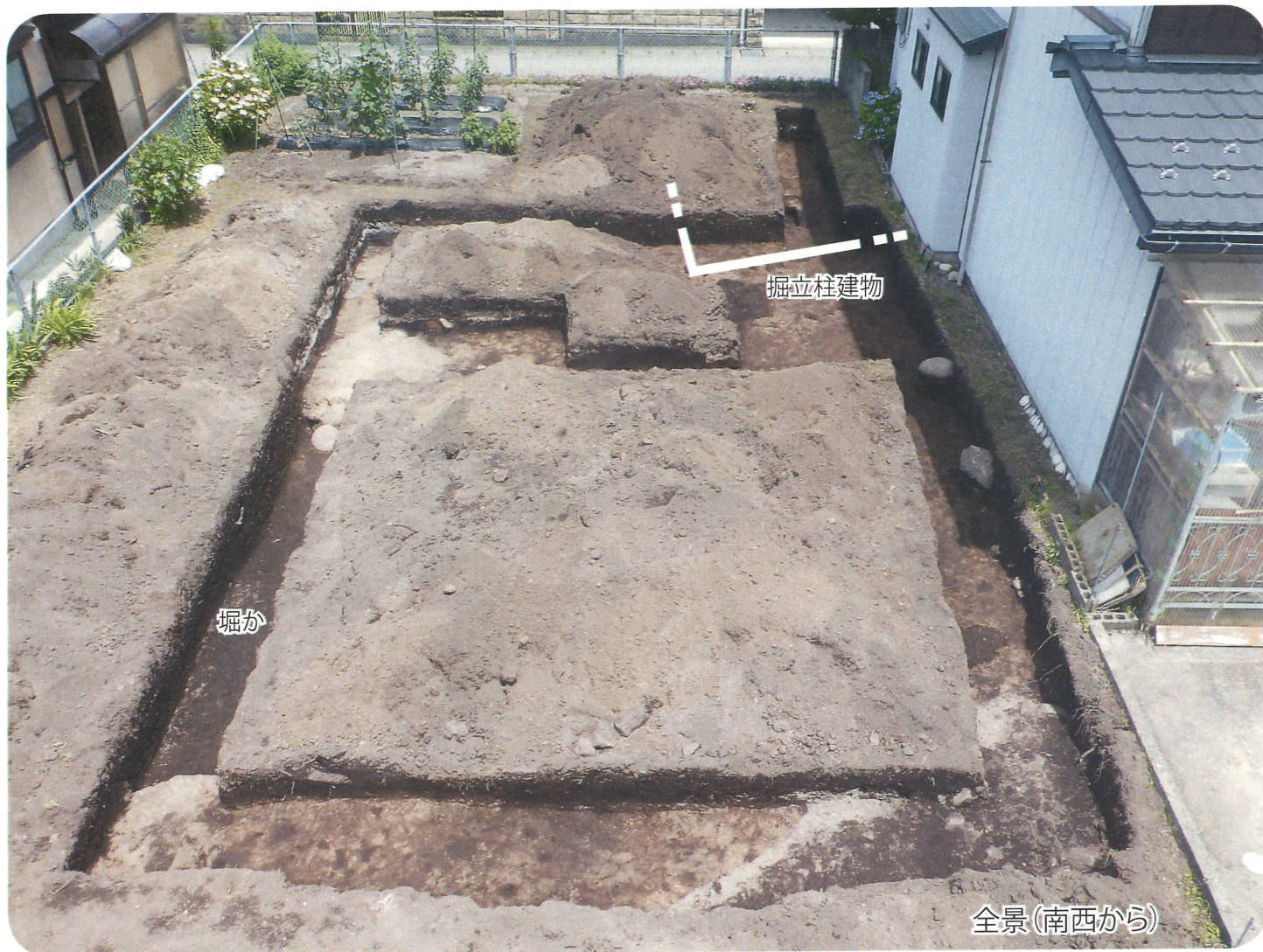
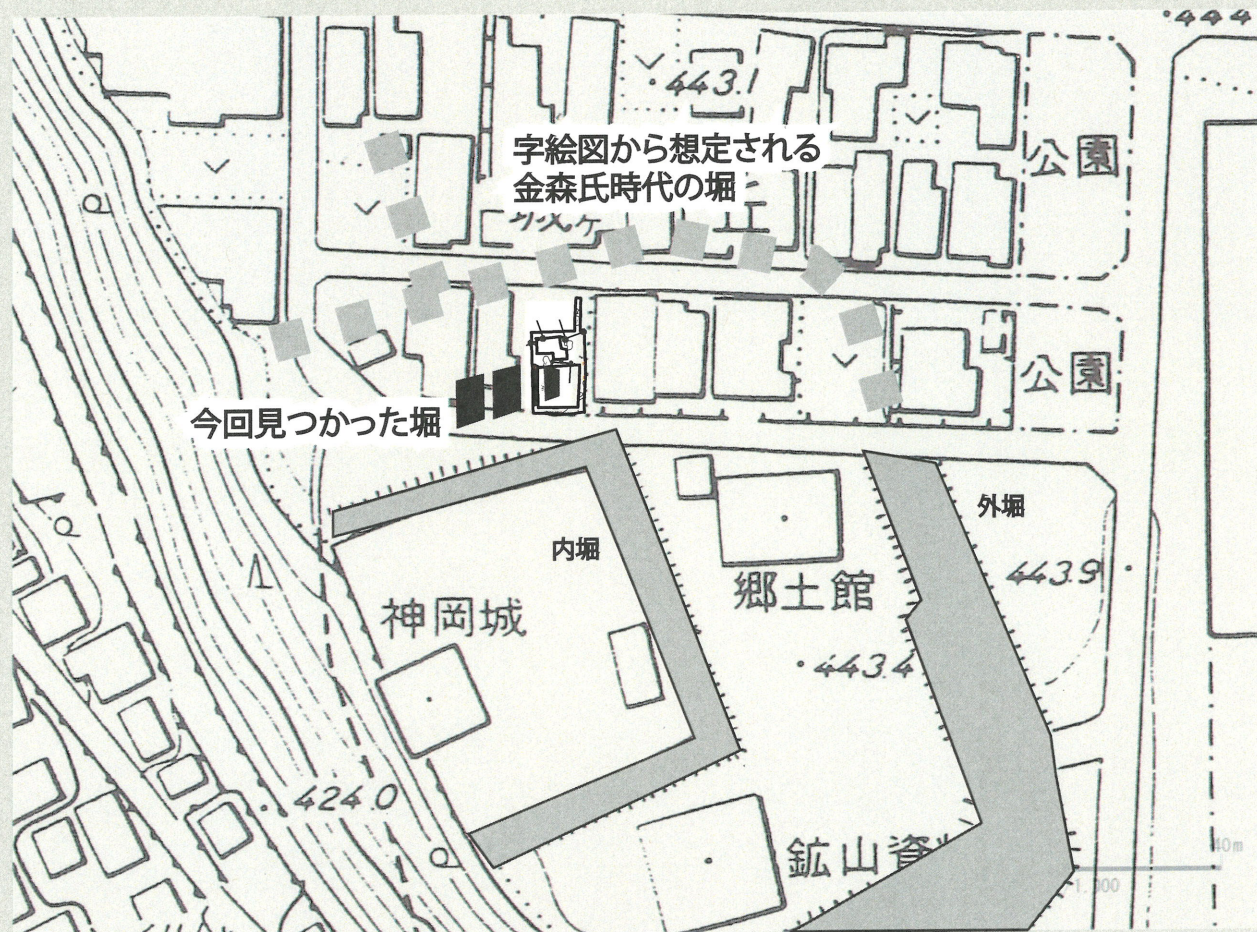
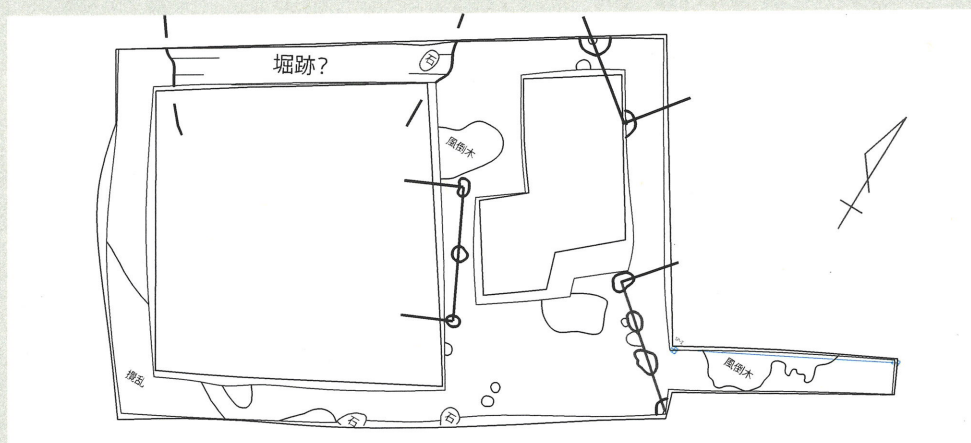


東 町 城 跡 現 地 説 明 会 資 料





東町城跡縄張り図



発掘調査平面図

東町城跡における発掘調査の概要

遺構：柱穴、堀など

知見：掘立柱建物跡を構成する柱穴の状況は江馬氏下館跡の状況と近似するため、近世初頭の金森氏ではなく、中世の江馬氏に関わる可能性があるとして想定されます。また、今回の調査では、5m幅の堀跡と想定される溝状の遺構を確認しました。これまで字絵図等から想定していた金森氏時代の堀とは位置が合わないため、その前段階の江馬氏が造った堀と想定されます。

江馬氏については、1500年代初めに下館を出た後から1580年代に滅びるまでの拠点の足取りがよく分かっていませんでした。今回発見した遺構は、この空白期間を埋める手がかりとなるもので、東町城が江馬氏最後の拠点であった可能性が高まりました。